



平成 29 年度 住総研重点テーマ「住まい手からみた住宅の使用価値」連続シンポジウム

第 47 回 2017 年 9 月 11 日 (月) 13:30 ~ 17:00

団塊世代が形成した郊外住宅ストックの 世代間移転とその可能性

■主旨説明 野城智也 (東京大学生産技術研究所 教授)

■話題提供

- 1) 残された時間は少ない—かつての新築住宅地の持続・世代間移転の可能性 園田真理子 (明治大学 教授)
- 2) まちの魅力をつくりこむ主体は誰か 齊藤広子 (横浜市立大学 教授)
- 3) 郊外住宅はミレニアル世代に“リブランディング”できるのか? 池本洋一 (リクルート SUUMO 編集長)

※題名等は変更になる場合がございます

■総合討論 コーディネーター 野城智也 (前掲)

第 48 回 2018 年 1 月 15 日 (月) 13:30 ~ 17:00

住宅の使用価値の実体化の可能性

■主旨説明 野城智也 (東京大学生産技術研究所 教授)

■話題提供

- 1) 金融システムのデザインによる中古住宅の使用価値の実体化 大垣尚司 (青山学院大学 教授)
- 2) 住宅ストックのブランディングによる実体化 中林昌人 (既存住宅流通研究所 所長)
- 3) 使用価値をもとにした取引のできる市場を創るには 中川雅之 (日本大学 教授)

※題名等は変更になる場合がございます

■総合討論 コーディネーター 野城智也 (前掲)

会 場: 建築会館ホール (〒108-8414 東京都港区芝 5 丁目 26 番 20 号)

参加費: 一般 1,000 円 / 学生 500 円

※参加費はすべて東日本大震災・熊本地震復興義捐金として被災地にお送り致します。

定 員: 150 名

後 援: 一般社団法人日本建築学会 (予定)



平成 29 年度 住総研重点テーマ「住まい手からみた住宅の使用価値」連続シンポジウム

既存住宅の利活用の必要性が叫ばれて久しく、様々な政策が企画され展開している。しかしながら、「フローからストックへ」というパラダイム転換は進んではいるものの、「新たな豊かさ」実現に向けての変革は遅々としているといわざるを得ない。

人口減少・高齢者人口比率の上昇、世帯構成の小規模化・多様化、経済縮退・雇用の不安定化、日本列島における地震活動の活発化や地球温暖化に伴う災害程度・頻度の高まりなどによる、我が国の投資余力の縮退を勘案するならば、変革の歩みが遅いことによって、「新たな豊かさ」実現への機会を失ってしまうおそれも日々たかまっている。

では、どうしたら、変革の歩みを早めていけるのであろうか？

第 47 回シンポジウムでは、団塊世代が建設・購入した郊外住宅のストックに焦点を当てたい。それらの郊外住宅ストックの使用価値が、市場における売買・賃貸取引などを通じて、若年世帯に円滑に移転されていく可能性と課題を、地域、人、世帯、コミュニティ、市場などの側面からあぶり出していきたい。

第 48 回シンポジウムでは、住宅の使用価値の実体化に焦点をあてたい。既存の枠組を越えた如何なるシステムを創ることが、住宅の使用価値を市場において実体化させていくことになるのか、金融システムのデザイン、住宅ストックのブランディング、評価・取引システムのデザインなどの側面から考えていきたい。

住総研 住まい手からみた住宅の使用価値研究委員会委員長
野城智也（東京大学生産技術研究所 教授）

■申込方法

ホームページの申し込みフォームまたは FAX でお申し込みください。

住総研 HP (<http://www.jusoken.or.jp/symposium/jusoken.html>)

■お問い合わせ

一般財団法人 住総研 e-mail:sympo@jusoken.or.jp

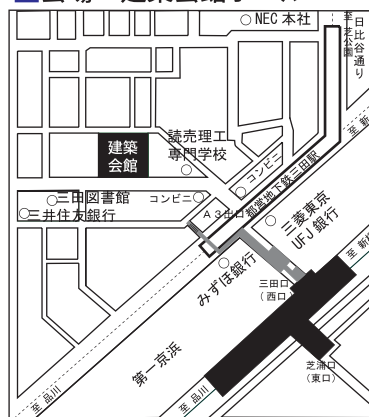
〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-12-2 朝日ビルディング 2 階

TEL:03-3275-3078 / FAX:03-3275-3079

(住所が 7 月 18 日より上記に変更になりました)

このシンポジウムは継続職能研修(建築士会 CPD)認定プログラム(各回 3 単位)です。

■会場：建築会館ホール



JR 田町駅
三田口徒歩 3 分
都営地下鉄三田駅
A3 出口徒歩 3 分

参加申込み

第 47 回(9 月 11 日) 第 48 回(1 月 15 日) (参加を希望される日程に☑を記入してください)

ふりがな
お名前

ご所属 (一般 学生)

ご連絡先 (ご所属 ご自宅)

(〒 -)

e-mail アドレス

TEL

FAX

住総研 FAX : 03-3275-3079